



平成23年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成22年10月29日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 ココカラファイン
コード番号 3098 URL <http://www.cocokarafine.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 塚本 厚志

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 千田 吉裕

四半期報告書提出予定日 平成22年11月12日

配当支払開始予定日

TEL 045-548-5957

平成22年12月6日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第2四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第2四半期	100,177	3.0	1,756	△6.9	3,632	△3.4	1,617	△28.4
22年3月期第2四半期	97,235	21.2	1,885	4.8	3,758	8.8	2,257	17.5

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第2四半期	81.20	—
22年3月期第2四半期	113.36	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第2四半期	84,939	46,618	54.9	2,340.94
22年3月期	79,679	45,997	57.7	2,309.76

(参考) 自己資本 23年3月期第2四半期 46,618百万円 22年3月期 45,997百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	—	—	50.00	50.00
23年3月期	—	33.00	—	—	—
23年3月期 (予想)	—	—	—	25.00	58.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	255,320	33.7	4,330	27.6	8,450	19.5	6,140	47.3	254.48

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

平成22年9月14日「当期業績予想の修正および今後の見通しに関するお知らせ」にて業績修正を行っております。

4. その他 (詳細は、【添付資料】P.5「その他」をご覧ください。)

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

新規 一社 (社名)、 除外 一社 (社名)

(注) 当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

(注) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 有

(注) 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 23年3月期2Q 19,922,156株 22年3月期 19,922,156株

② 期末自己株式数 23年3月期2Q 7,730株 22年3月期 7,748株

③ 期中平均株式数(四半期累計) 23年3月期2Q 19,914,426株 22年3月期2Q 19,914,753株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)4ページ「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. その他の情報	5
(1) 重要な子会社の異動の概要	5
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	5
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書	8
【第2四半期連結累計期間】	8
【第2四半期連結会計期間】	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 継続企業の前提に関する注記	11
(5) セグメント情報	11
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	13

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、好調な新興国経済の効果を背景に一部で景気回復の動きはみられるものの、本格的な企業業績の回復には至っておらず、雇用情勢の悪化や先行きの不透明感によって生活防衛意識が高まり消費者の購買意欲が冷え込むなど、厳しい経営環境が続いております。当社の属するドラッグストア業界におきましては、業態間競争が本格化し、M&Aや資本・業務提携等の業界再編が加速する中、生き残りのため企業独自の差異化戦略が必要不可欠になってまいりました。

このような状況下、当社は業態間競争に勝ち抜く経営基盤の確立の一環として、平成22年10月1日、株式会社アライドハーツ・ホールディングスと合併し、社名を株式会社ココカラファインと変更致しました。今後も増強した基盤に基づく競争力の強化、拡大した企業規模に対応したコーポレートガバナンス、人材育成の強化等を行うことにより、企業価値の一層の向上を推進してまいります。

①ドラッグ・調剤事業

(概要)

中期経営計画「次世代型ドラッグストアビジネスの創造」に対する取り組みを行うと共に、子会社セイジョーによる株式会社いわいのドラッグストア事業取得等の既存ドラッグストア事業におけるドミナント戦略の深化、ならびに事業の拡大・競争力の強化を行ってまいりました。

事業業績といたしましては、猛暑による夏物商材の好調や依然として好調な調剤事業等の効果はあったものの、前期における新型インフルエンザ特需（マスク等のニーズ拡大）の反動が大きく、当第2四半期連結累計期間の既存店売上高増収率は、2.9%減となりました。出店等による増収効果やコストシナジーの創出効果も含め、売上高は85,152百万円、営業利益は2,556百万円となりました。

(出退店状況)

出退店につきましては、新規に40店舗を出店（株式会社いわいからの譲受店舗24店舗含む）、14店舗の退店を行い、既存事業の体質強化を図りました結果、当第2四半期連結会計期間末の当社グループ店舗数は、以下のとおり687店舗となりました。

(単位：店)

	当社グループ計				セイジョー				セガミメディクス			
	期首	出店	閉店	期末	期首	出店	閉店	期末	期首	出店	閉店	期末
関東・甲信越	322	32	10	344	256	32	6	282	66	0	4	62
東海	37	3	0	40	27	3	0	30	10	0	0	10
関西	132	5	2	135	0	0	0	0	132	5	2	135
中国	57	0	0	57	0	0	0	0	57	0	0	57
四国	20	0	0	20	0	0	0	0	20	0	0	20
九州・沖縄	93	0	2	91	0	0	0	0	93	0	2	91
全国計 (内調剤取扱)	661 (117)	40 (12)	14 (3)	687 (126)	283 (51)	35 (11)	6 (2)	312 (60)	378 (66)	5 (1)	8 (1)	375 (66)

(商品販売状況)

医薬品につきましては、一般用医薬品（大衆薬）の不振を調剤事業の好調によりカバーし、売上高は26,288百万円（前年同期比1.7%増）となりました。化粧品につきましては、消費低迷による影響もありましたが、夏物商材の好調などによりカバーすることができ、27,577百万円（同2.5%増）となりました。健康食品・日用生活商品につきましては、それぞれ3,908百万円（同1.1%減）・15,339百万円（同2.7%増）となり、その他につきましては、主に前期におけるマスク等新型インフルエンザ関連特需の反動が大きく、12,037百万円（同2.2%減）となりました。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)		当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)		
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)	前年同期比 (%)
医薬品	25,853	30.8	26,288	30.9	101.7
うち調剤	9,227	11.0	10,124	11.9	109.7
化粧品	26,912	32.1	27,577	32.4	102.5
健康食品	3,951	4.7	3,908	4.6	98.9
日常生活商品	14,937	17.8	15,339	18.0	102.7
その他	12,312	14.7	12,037	14.1	97.8
全店計	83,966	100.0	85,152	100.0	101.4
卸・介護他	13,268	-	15,025	-	113.2
全社計	97,235	-	100,177	-	103.0

- (注) 1. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。
 2. その他商品の主な内容は、医療用具・ベビー用品・食品等であります。
 3. 構成比(%)は、それぞれ全店計の金額に対する割合を記載しております。

②卸売事業

エリア戦略推進、卸事業を拡大したことにより、売上高は14,444百万円、営業利益は116百万円となりました。

③介護事業

営業体制の強化とコア事業であるドラッグ・調剤との連携強化に重点を置き収益改善に取り組んでおります。昨年9月に取得した株式会社タカラケアの収益も寄与した結果、売上高は581百万円、営業損失は62百万円となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の連結業績は、売上高100,177百万円(前年同期比3.0%増)、営業利益1,756百万円(同6.9%減)、経常利益3,632百万円(同3.4%減)、四半期純利益1,617百万円(同28.4%減)となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、84,939百万円となり、前連結会計年度末に比べて5,260百万円増加いたしました。主な要因は、現金預金が1,339百万円、売掛金が1,424百万円、たな卸資産が422百万円、のれんが383百万円増加したことによるものであります。

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、38,321百万円となり、前連結会計年度末に比べて4,639百万円増加いたしました。主な要因は、負ののれんが583百万円減少したものの、支払手形及び買掛金が3,633百万円、未払法人税等が379百万円増加したことによるものであります。

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、46,618百万円となり、前連結会計年度末に比べて620百万円増加いたしました。主な要因は、配当金995百万円の支払いがあったものの、当第2四半期連結累計期間における四半期純利益1,617百万円の計上があったことによるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は前連結会計年度末に比較して1,339百万円増加し、11,493百万円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、4,953百万円(前年同期比24.9%増、前年同期3,967百万円の収入)となりました。

これは、税金等調整前四半期純利益が2,434百万円に対して、主な増加要因として非資金費用である減価償却費及びその他の償却費の計上が980百万円、仕入債務の増加が2,697百万円あったものの、減少要因として、売上債権の増加が1,305百万円、法人税等の支払額が703百万円あったこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用された資金は、2,161百万円(同95.1%増、前年同期1,107百万円の支出)となりました。これは主として新規出店等による有形固定資産の取得による支出1,104百万円、貸付けによる支出610百万円、敷金及び保証金の差入による支出492百万円があったこと等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用された資金は、1,453百万円(同46.8%減、前年同期2,733百万円の支出)となりました。これは主として、配当金の支払額995百万円と短期借入金の減少における300百万円の支出があったこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成22年9月14日にて、従前発表しております合併および事業譲渡等を踏まえ、平成22年4月30日付「平成22年3月期決算短信」公表時業績予想を「当期業績予想の修正および今後の見通しに関するお知らせ」のとおり変更しております。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

ただし、見積実効税率を使用できない場合には、税引前四半期純利益に法定実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

1. 会計処理基準に関する事項の変更

(1) 第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。

これにより、営業利益及び経常利益は、それぞれ38百万円減少し、税金等調整前四半期純利益は、659百万円減少しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は125百万円であります。

(2) 従来、連結子会社である(株)セイジョーの商品(調剤薬品は除く)の評価方法は売価還元法によっておりましたが、第1四半期連結会計期間から総平均法に変更しております。この変更は、セガミメディクス(株)との経営統合を契機に行った在庫管理システムの見直しが完了し、品目単位ごとの在庫管理が可能になったことから、より適正な期間損益計算の実施と連結会社間の会計処理方針の統一を目的として行なったものであります。

この結果、従来の方法によった場合に比べて、売上総利益及び営業利益並びに、経常利益が47百万円減少し、税金等調整前四半期純利益が88百万円減少しております。なお、期首のたな卸資産の評価方法の変更に伴う差額41百万円は、特別損失「その他」に含めて計上しております。

2. 表示方法の変更

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第2四半期連結累計期間において、「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めていた「貸付けによる支出」は重要性が増したため、当第2四半期連結累計期間では区分掲記することとしております。なお、前第2四半期連結累計期間の「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含まれる「貸付けによる支出」は0百万円であります。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	10,726	9,387
売掛金	9,139	7,714
有価証券	800	800
たな卸資産	20,701	20,278
その他	5,784	5,335
貸倒引当金	△3	△4
流動資産合計	47,148	43,511
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	7,006	7,001
土地	9,287	9,175
その他(純額)	2,160	1,760
有形固定資産合計	18,455	17,937
無形固定資産		
のれん	835	451
その他	955	861
無形固定資産合計	1,790	1,313
投資その他の資産		
敷金及び保証金	13,813	13,729
その他	3,952	3,405
貸倒引当金	△219	△218
投資その他の資産合計	17,545	16,916
固定資産合計	37,791	36,167
資産合計	84,939	79,679
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	23,508	19,874
短期借入金	1,337	1,100
未払法人税等	916	537
賞与引当金	1,033	850
ポイント引当金	856	856
その他	3,832	3,346
流動負債合計	31,484	26,565
固定負債		
退職給付引当金	2,347	2,412
負ののれん	2,917	3,501
その他	1,571	1,202
固定負債合計	6,836	7,116
負債合計	38,321	33,681

(単位:百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000	1,000
資本剰余金	23,985	23,985
利益剰余金	21,580	20,959
自己株式	△14	△14
株主資本合計	46,551	45,930
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	66	67
評価・換算差額等合計	66	67
純資産合計	46,618	45,997
負債純資産合計	84,939	79,679

(2) 四半期連結損益計算書

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
売上高	97,235	100,177
売上原価	73,188	75,749
売上総利益	24,046	24,427
販売費及び一般管理費	22,160	22,671
営業利益	1,885	1,756
営業外収益		
負ののれん償却額	583	583
仕入割引	400	414
その他	970	948
営業外収益合計	1,954	1,946
営業外費用		
その他	82	70
営業外費用合計	82	70
経常利益	3,758	3,632
特別利益		
貸倒引当金戻入額	1	—
その他	0	13
特別利益合計	1	13
特別損失		
固定資産除却損	36	53
店舗閉鎖損失	12	—
賃貸借契約解約損	31	71
ゴルフ会員権評価損	13	0
減損損失	124	336
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	647
その他	0	103
特別損失合計	218	1,211
税金等調整前四半期純利益	3,541	2,434
法人税等	1,284	817
四半期純利益	2,257	1,617

【第2四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結会計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)
売上高	49,621	52,382
売上原価	37,705	39,921
売上総利益	11,915	12,461
販売費及び一般管理費	11,152	11,494
営業利益	763	966
営業外収益		
負ののれん償却額	291	291
仕入割引	206	213
その他	502	486
営業外収益合計	1,000	991
営業外費用		
その他	54	41
営業外費用合計	54	41
経常利益	1,709	1,917
特別利益		
その他	0	13
特別利益合計	0	13
特別損失		
固定資産除却損	31	12
店舗閉鎖損失	6	—
賃貸借契約解約損	2	53
ゴルフ会員権評価損	13	0
減損損失	17	35
その他	0	3
特別損失合計	72	104
税金等調整前四半期純利益	1,637	1,826
法人税等	598	682
四半期純利益	1,039	1,143

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	3,541	2,434
減価償却費及びその他の償却費	993	980
減損損失	124	336
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	651
のれん及び負ののれん償却額	△542	△526
引当金の増減額(△は減少)	227	△11
受取利息及び受取配当金	△27	△30
支払利息	8	12
固定資産受贈益	△72	△57
固定資産除却損	36	49
店舗閉鎖損失及び賃貸借契約解約損	44	71
売上債権の増減額(△は増加)	△53	△1,305
たな卸資産の増減額(△は増加)	77	96
仕入債務の増減額(△は減少)	1,691	2,697
その他	△308	261
小計	5,740	5,658
利息及び配当金の受取額	7	10
利息の支払額	△7	△11
法人税等の支払額	△1,773	△703
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,967	4,953
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△13	△23
定期預金の払戻による収入	13	23
有形固定資産の取得による支出	△522	△1,104
貸付けによる支出	△0	△610
敷金及び保証金の差入による支出	△462	△492
敷金及び保証金の回収による収入	178	146
その他	△300	△101
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,107	△2,161
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額(△は減少)	△1,700	△300
社債の償還による支出	△10	—
配当金の支払額	△995	△995
その他	△27	△157
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,733	△1,453
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	126	1,339
現金及び現金同等物の期首残高	10,707	10,153
現金及び現金同等物の四半期末残高	10,834	11,493

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)

	ドラッグ・ 調剤事業 (百万円)	卸売事業 (百万円)	介護事業 (百万円)	計(百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結(百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する 売上高	83,966	12,842	426	97,235	—	97,235
(2) セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—	—
計	83,966	12,842	426	97,235	—	97,235
営業利益 (又は営業損失)	2,535	152	△69	2,618	(732)	1,885

(注) 1 事業の区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2 各区分の主な事業内容

- (1) ドラッグ・調剤事業……医薬品、化粧品、日用生活商品等の小売販売であります。
- (2) 卸売事業……医薬品、化粧品、日用生活商品等の商品供給を行っております。
- (3) 介護事業……介護施設の運営、訪問介護等を行っております。

3 営業費用のうち、消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用(732百万円)の主なものは、親会社本社の管理部門に係る費用であります。

4 従来、「ドラッグ・調剤事業」の売上高及び営業利益の金額が、全セグメントの売上高及び営業利益の合計額の90%を超えていたため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しておりましたが、「卸売事業」が順調に拡大し、その重要性が増加したことに伴い当第2四半期連結累計期間から事業の種類別セグメント情報を作成しております。

【所在地別セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)

本邦以外の国または地域に所在する連結子会社及び在外支店がないため、該当事項はありません。

【海外売上高】

前第2四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)

海外売上高がないため、該当事項はありません。

【セグメント情報】

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用 指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

1 報告セグメントの概要

当社グループは、事業会社別、事業区分別に内部管理を行っております。事業区分としましては、医薬品、化粧品、日用生活商品等の小売販売を行う「ドラッグ・調剤事業」、医薬品、化粧品、日用生活商品等の商品供給を行う「卸売事業」、介護施設の運営、訪問介護等を行う「介護事業」の3つの事業を展開しております。従って、「ドラッグ・調剤事業」、「卸売事業」、「介護事業」の3つを報告セグメントとしております。

2 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第2四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	ドラッグ・ 調剤事業	卸売事業	介護事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	85,152	14,444	581	100,177	—	100,177
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	85,152	14,444	581	100,177	—	100,177
セグメント利益(営業利益)	2,556	116	△62	2,610	△853	1,756

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない管理部門に係る収益及び費用であります。

3 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

当第2四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	2,610
全社費用(注)	△853
四半期連結損益計算書の営業利益	1,756

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

4 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第2四半期連結会計期間(自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)

(のれんの金額の重要な変動)

「ドラッグ・調剤事業」セグメントにおいて㈱いわいの同事業を譲り受けたことにともない、のれんが442百万円増加しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。